

The Naoshima Plan 2019「水」

直島の本村地区にある旧家にて、The Naoshima Plan 2019「水」展を開催

瀬戸内国際芸術祭2019の開催期間中、直島の本村地区にある旧家にて展覧会、The Naoshima Plan 2019「水」を開催いたします。

瀬戸内海に浮かぶ直島では、国内外で活躍してきた様々な建築家の作品が島の風景と調和し、世界中から注目を集めています。そんな建築家のひとり、三合一博志が2011年から取り組んでいる「The Naoshima Plan」は、直島にて、個々の建築や街区、水路などを通して島全体の風・水・太陽などの「動く素材」を浮き上がらせ、その美しさや大切さ、新たな価値を再認識する試みです。

2019年の会場である旧家は本村集落の中心に位置し、古くは郵便局として島民に親しまれてきました。南北の庭、南北の続き間など、三合一が指摘する「集落の風のリレー」を可能にする本村の家屋の特徴を色濃く現代に残しているもののひとつです。

これまで三合一は2013年には「風と水のコクピット」で、2016年には「直島ホール」と「直島の家ーまたべえ」公・民2つの建築で、主に屋根など建物上部を利用した“空気”と“水”の流れに着目し実践してきました。本展は建物下部の「動く素材」、”地下水脈”に着目し、新たに建物の一部の改修を行うことでそれを顕在化させることを試みます。

古くから本村には井戸水を集落の共有資源として大切に利用する「水のリレー」という美しい考え方が存在していました。

本展において水を介した交流(井戸端)が再生され、訪れた方々が水を中心とした「地球内部の動く素材」の価値を再認識できる場所となることを願っています。

この度、春会期直前の4月24日（水）にThe Naoshima Plan 2019「水」の開催記念式典および町民お披露目会を行います。三合一博志本人が直接説明する貴重な機会となります。ぜひご取材のほど賜りますようお願い申し上げます。

日時：2019年4月24日（水）15:30開始（受付15:00）

展覧会場：



※この地図は、国土地理院発行の地図を使用し、福武財団にて加工したものです。

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島 広報担当 末廣・栗原

〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel.087-892-2550 Fax.087-892-2011

E-mail press@fukutake-artmuseum.jp <http://www.benesse-artsite.jp/>

三分一博志(さんぶいちひろし) プロフィール

1968年生まれ。故郷瀬戸内エリアを拠点に建築が地球の一部となることをテーマに地域に根ざした設計を行う。

「犬島精錬所美術館」(岡山)では、日本建築学会賞と日本建築大賞を同時受賞し、「直島ホール」(香川)では二度目の日本建築学会賞や村野藤吾賞、国内の公共建築では初の受賞となるWallpaper*Design Award 大賞(イギリス)、The Daylight Award(デンマーク)を受賞。

世界遺産宮島の「弥山展望台」(広島)からの眺望は、ミシュラングリーンガイド(フランス)の三つ星と評価され、「自然体感展望台 六甲枝垂れ」(兵庫)も同一つ星を獲得。近作では、世界遺産原爆ドーム沿いの「おりづるタワー」(広島)や日本・デンマーク外交関係樹立150周年展覧会「Cisterne × Sambuichi "THE WATER"」(デンマーク)を手がけるなど海外での評価も高い。

近年の豪雨災害をきっかけに、地域拠点としての井戸を整備していく「井戸端プロジェクト」が進行中。現在、デンマーク王立芸術アカデミー教授(非常勤)であり、著書に「三分一博志 瀬戸内の建築(TOTO出版)」や「三分一博志作品集JA81(新建築社)」など。

The Naoshima Planについて

「The Naoshima Plan」は、三分一博志が直島にて、2011年から取り組んでいる個々の建築や街区、水路などを通して島全体の風・水・太陽などの「動く素材」を浮き上がらせ、その美しさや大切さ、新たな価値を再認識する試みです。

ベネッセアートサイト直島について

「ベネッセアートサイト直島」は、1987年以来、瀬戸内に浮かぶ直島、豊島、犬島の3つの島を舞台に、株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海の風景の中、ひとつの場所に、時間をかけてアートをつくりあげていくこと—各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針です。

各島でのアート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々との触れ合いを通して、訪れてくださる方がベネッセグループの企業理念である「ベネッセ—よく生きる」とは何かについて考えてくださることを願っています。

そして、活動を継続することによって地域の環境・文化・経済すべての面において社会貢献できるよう、現代アートとそれを包含する場である地域がともに成長し続ける関係を築いていきたいと考えています。